

1本の糸“SUPER ZERO[®]”で世界へ挑戦する燃糸企業

浅野燃糸株式会社

- 代表者名 代表取締役社長 浅野 雅己
- 所在地 〒503-0124 岐阜県安八郡安八町中875-1
- 会社HP <https://asanen.co.jp/>

1. 地獄の中でつかんだ糸“SUPER ZERO”

“燃糸(ねんし)”とは、「糸に燃り(より)をかけること、または燃りをかけた糸のこと」である。燃糸は繊維産業の川上、川中、川下でわけたとき、川上部門に位置する糸加工という工程にあたる。

浅野燃糸は1967年に創業、最先端の機械と技術で大手企業からの大量受注を獲得、順調に売上げを伸ばし羨望のまなざしで見られる企業であった。しかし、この状況は2000年代に入ると安価な中国製品の台頭や急激な円高で一変する。7億円を超える売上げは2億円台にまで下がる。“大手との取引”という宝は“大手ゆえ早く海外に製造移転する”という皮肉な結果を生むことになる。

30人いた自社の従業員の20人を解雇、自社のために協力してくれた20社の協力企業を半減させるなど筆舌に尽くし難い状況を迎えることになる。

ゼロから再出発。手掛けたのは“オンリーワン技術”である。海外の安価な製品に負けないようにするには、付加価値のある独自の糸を開発するしかない…そんな思いと5年の歳月をかけ



浅野燃糸
浅野雅己社長

て完成した糸が、こんにちの浅野燃糸を支える“SUPER ZERO”である。きっかけはかつて取引のあった“クラレ”のお湯に溶ける糸との出会いである。他の糸と組み合わせ製造工程でお湯に溶けるこの糸だけを溶かしてしまうことで、タオル生地となる糸の中に空気の間隙を作り抜群の吸水性を実現した。5年間に2000を超える試作を行い試行錯誤のうえ完成した魔法の糸である。

2. B2BからB2Cへ“エアーかおる”の誕生

“SUPER ZERO”の開発から4年目の2005年、銀行の仲介で三重県のおぼろタオルと出会う。“SUPER ZERO”をタオルという製品に変えるパートナー企業である。そしてついに2007年に老舗企業から採用される。「きっと他社からも採用されるであろう…」そんな思いとは裏腹にタオル問屋の返事は「こんな高いタオルは売れない」であり、商談はいっこうに進まない。廃業という言葉が脳裏をかすめるなかで、同社は方針を変えて自社商品化を決断する。自分で売る、タオルに名前とロゴマークをつける、売り先は無数にあるはずだ…そんななかで生まれたのが“エアーかおる[®]”である。エアーは糸の特徴、かおるは世界に打って出るための日本人の名前であり、KAOLのKはクラレ、Aは浅野燃糸、Oはおぼろタオル、LはLive=生きているであり、

ロゴマークの顔は奥様がモデルであるという。

モノは完成したが販路開拓ができない、B2Cの売り方がわからない…というB2B企業に共通の壁にぶつかる。そんななかで転機が訪れる。地元の岐阜新聞の支援のもと大垣市役所で行った“エアーかおる”のプレスリリースである。このプレスリリースがきっかけとなり、新聞やテレビで取り上げられ、“エアーかおる”の支援者が次から次へと現れることになる。

活動は加速する。次の挑戦は東京ビッグサイトでの展示会である。この展示会を見ていたジャーナリストが語り掛ける。「一流のバイヤーは嗅覚が優れている。必ずこのタオルを嗅ぎ付けてくる」。



幾多の苦難を乗り越えて、2億円台まで落ち込んだ同社の売上は20億円を越えるまでに成長、「エアーかおる」の売上も累計1500万枚を達成する。SUPER ZEROという1本の糸が同社を救ったことになる。

3. 市場は世界へ。“福島プロジェクト”に込められた思い

2023年4月。浅野撚糸は福島県双葉町に本社の約3倍の事業所「フタバスーパーゼロミル」をオープンした。



2023年4月に稼働した
福島双葉事業所



双葉工場責任者の河合常務

双葉町は福島第一原発の近くに位置し東日本大震災で避難勧告が出された地域である。2022年11月現在、町の一部の避難勧告は解除された

が住民はいまだ60人である。

浅野社長は福島大学の出身であり、福島は青春時代を過ごした地域でもある。震災から12年の時を経て、「この町に産業を創り交流人口を拡大し恩返しをしたい」「“SUPER ZERO”でこの町がよみがえっていく姿を全世界に届けたい」そんな思いから福島プロジェクトを進める。総額30億円のプロジェクトは社運を賭けたプロジェクトでもある。



同社は、この工場を拠点に2030年には4000tの生産を見込み、この糸を使ったタオルの海外展開していく計画である。双葉から世界へ“SUPER ZERO”を発信していく。

4. 1本の糸が世界を変えていく

浅野撚糸はナンバーワンよりもオンリーワンを目指す、誰にも真似できない技術でユニークな最終製品“エアーかおる”という世界に通じるタオルを事業化した。次なる挑戦は、世界に通用するオンリーワン企業として、さらなる磨きをかけること、浅野撚糸という会社が、“SUPER ZERO”という糸を通じて夢に向かって走り輝き続けることであるという。

夢の実現を通じて、会社やすべてのステイクホルダーに笑顔と勇気をもたらした“SUPER ZERO”という1本の糸が、近い将来、日本の繊維産業を活性化し、世界を変えていくことを応援していきたい。

※“SUPER ZERO”、“エアーかおる”は浅野撚糸株式会社の登録商標です。

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
経営支援部 中小企業アドバイザー(経営支援) 石坂 尚